

平成 22 年 6 月 14 日

総務省総合通信基盤局
電波部電波政策課 御中

郵便番号 105-7317

(ふりがな) とうきょうとみなとくひがしんぼし
住 所 東京都港区東新橋一丁目9番1号

(ふりがな) ソフトバンクモバイル株式会社
氏 名

だいひょうとりしまりやくしゃちょうけんしーいーおー ぞん まさよし
代表取締役社長兼CEO 孫 正義

郵便番号 105-7316

(ふりがな) とうきょうとみなとくひがしんぼし
住 所 東京都港区東新橋一丁目9番1号

(ふりがな) ソフトバンクテレコム株式会社
氏 名

だいひょうとりしまりやくしゃちょう しーいーおー ぞん まさよし
代表取締役社長兼CEO 孫 正義

郵便番号 105-7304

(ふりがな) とうきょうとみなとくひがしんぼし
住 所 東京都港区東新橋一丁目9番1号

(ふりがな) ソフトバンクBB株式会社
氏 名

だいひょうとりしまりやくしゃちょうけんしーいーおー ぞん まさよし
代表取締役社長兼CEO 孫 正義

当該意見募集に関しまして、今回このような提案募集の機会を設けていただいたことに、厚く御礼申し上げます。

「ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見募集」に関し、別紙のとおり意見書を提出します。

尚、問い合わせ等は、下記連絡先で対応致しますので、宜しくお願い致します。

意見項目	意見内容
<p>(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）</p>	<p>弊社は、日本において2008年にiPhone、2010年はiPadを市場に投入し、固定インターネットのアプリケーションをモバイルブロードバンドサービスの中での利用を可能としてきました。</p> <p>これは固定インターネットのモバイルインターネットへの移行であり、この携帯電話等のモバイルブロードバンドの中でのユーストリーム、電子書籍等のサービス高度化の傾向は今後更に加速することが予測されます。</p> <p>上記に連動し、携帯電話等のモバイルブロードバンドの容量（トラフィック）は、弊社の予測としては10年後に現在の約1600倍に増加し、その対応のために通信システムの高度化、基地局の小セル化が進展すると考えております。</p> <p>（参考資料） スライドP1～5</p>
<p>(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備）</p>	<p>700～900MHz帯は、周波数の伝播特性及び建物への浸透性が良くワイヤレスブロードバンドサービスに適しており経済価値の最も高い周波数帯です。この帯域の周波数配置には歴史的経緯により既にMCA等の他システムでの利用実績があり、当該システムの移行は難しい状況です。しかし、低迷する日本経済を立て直す施策として、日本の周波数配置を国際標準バンドに合わせた見直しを行うことは、国際競争力向上のためには非常に重要であり、困難を伴いますが、国際標準バンドに合わせて700MHz帯は698～806MHzの間、900MHz帯は880～960MHzの間で周波数利用効率が良い携帯電話の周波数を最大限に確保し、再編するべきであると考えます。</p> <p>携帯電話システムの場合、国際的に最も標準化が進んでいる900MHz帯での周波数確保をまず優先するためには、この帯域の利用者であるMCA及びRFID等の移行が必須となり、これらのシステムについても日本固有の帯域利用ではなく、米国等で利用されている同じ帯域（国際標準バンド）に移行するべきであると考えます。</p> <p>移行を行うための費用に関しては、電波利用料制度を見直し、早期の周波数移行が可能となる新たな制度・仕組みを作るべきであると考えます。</p> <p>（参考） スライドP6～12</p>

<p>(3) 関連する国内外の動向と課題</p>	<p>RFID はヨーロッパでも需要が高まっており、800MHz 帯から 900MHz 帯へ移行が予定され、米国と同じ 900MHz 帯で利用予定です。</p> <p>パーソナル無線は、1992 年末には 170 万局を超えたもののその後減少し、既に 2 万局以下です。周波数有効活用のため、終了期限を早期に設定するべきであると考えます。</p> <p>パーソナル無線は無線従事者資格が不要なデジタル方式の簡易無線システムにて代替できる可能性もあります。また、音声通話が主体であり、使用料金の問題がなければ携帯電話での代替も可能です。携帯電話事業者は巻き取りに協力するべきであると考えます。</p> <p>(参考) スライド P13～15</p>
<p>(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項</p>	<p>将来ワイヤレスブロードバンドの帯域は、更に必要となることが予測され、これに対応するためには放送帯域の更なる縮小を図るべきであると考えます。</p> <p>具体的には、放送帯域は UHF 53CH から更に効率的な利用を図り、望ましくは 33CH 以下、少なくとも 43CH 以下に縮小するべきであると考えます。</p> <p>また、ホワイトスペースは放送帯域を縮小した後に利用開始するべきであり、拙速な利用開始はするべきではないと考えます。</p> <p>上記に連動し、テレビ受信機的设计、ブースターやフィルタ等は技術規格を早急に見直し、テレビジョン放送に隣接する周波数帯の利用に将来影響が出ないようにするべきであると考えます。</p> <p>(参考) スライド P16～17</p>

以上